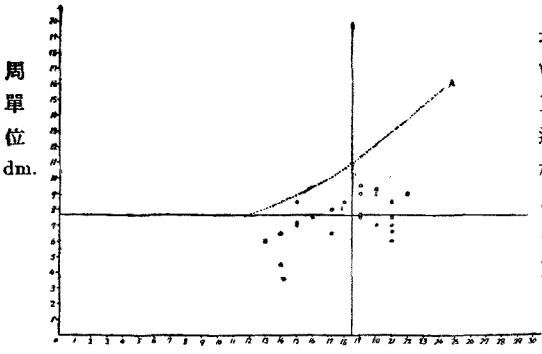

第十圖 *Araneus cornutus* の前亞成體の網に於ける周の長さと輻絲數の相關グラフ

したものである。輻絲數の平均値は18 44で亞♂と大差ない。周の平均値は7.76 dmで亞♂の 11 09dm と相當の相違を認める。即ち前亞成體は枠上に新な輻絲の附着點を定める時，舊輻絲の附着點からの距離が短い故である。成♀亞♀等は材料が豐富でないから確言は出來ないが大約亞♂に近似の樣であつた。前亞成體以前の若蛛に就いては知るところがない。

寫眞說明

第1圖 (Plate 9. 左) *Araneus cornutus* Clerck 前亞成體左右の第一間眼を除く他は盲目のもゝ造網 1938年8月1日朝 左の第二螺旋の亂れは住居への被絲による亂れ。

第2圖 (Plate 9 右) *A. cornutus* Clerck 前亞成體完全盲目 1938年8月3日夕 輻絲切斷4ヶ所，第二螺旋接着もあり。

第3圖 (Plate 10. 左) *A. cornutus* Clerck 前亞成體完全盲目 1938年8月8日夕 輻絲切斷6ヶ所。

第4圖 (Plate 10. 右) *A. cornutus* Clerck 前亞成體完全盲目 1938年8月9日夕 輻絲切斷5ヶ所，精細は(ド)に於て說明 (第三圖と第四圖は同一蜘蛛の作れるもの)

ヒトハリザトウムシの食性

On the Food-habit of a harvester, *Gagrella japonica.*

By **Takeo Yaginuma**

(大阪市住吉區隱合町 173) 八木沼健夫

ザトウムシの食性に關しては，昆蟲，蝸牛，蜱，キノコ等が知られてゐるが，邦文にて記載されたものは餘り聞かない。且て植村利夫氏が「紀州動植物」Vol. 2, No. 2, pp. 19—21 (1935) にアカサビザトウムシが *Mycena* sp.（チシホダケ屬の一種）を食することを報ぜられたのと，藤田衛氏が本誌 Vol. 1, No. 3, pp. 103—105 (1936) に數種のザトウムシの食性に關して報告されたのと位であらう。予は今回ヒトハリザトウムシ *Gagrella japonica* Roewer が昆蟲を食してゐたのを觀察したので此所に要點のみを報告する。藤田氏の報告には，食性として，シヤクトリガの一種 *Acidalia* sp. を擧げて居られたが，予の觀察したのは，ヲサムシの一種 *Carabus* sp. である。こゝにヒトハリザトウムシの食性として，新に加へられたわけである。

昭和十三年八月十一日奈良縣多武峰に於て蜘蛛を採集中，木の切株の上にヒトハリザトウムシが昆蟲を食しつゝある所を同行の臼本文四郎氏が發見，之を予に告げられたので，注意してみるとヲサムシが犧牲となつてゐるのであつた。體の大部分は食害され前翅の一部（右側），體の腹面，及び脚3本を餘すにすぎず。食し方はさもうまさうに，貪り食ふとでも云つた方が當つてゐるだらう。殘骸についてみるに，背面より食し始めたものらしく，觀察した時は既に體の內部に入りこんで腹面についた肉を食してゐる時であつたため，果して生きたものを食したのか，死んだものを食したものかは分らない。本昆蟲は *Carabus* sp. であるが，餘り食害されてゐるので種名を決定し難い。殘骸によつて目下調査中であるから，判明次第報告する。

藤田氏の報告によれば，ザトウムシは昆蟲の腹部を好んで食ふらしいとあるが *Carabus* の場合，頭，胸，脚等がなくなつてゐたから，とれたものとも考へられるが，或は食したのかも知れぬ。尙同氏は昆蟲の頭をザトウムシの前方に向けて，即ち向ぎ合つて食ふと報告して居られるが，予の觀察したものは，昆蟲と，ザトウムシは同方向を向いてゐたことを特記して置く。

終りにザトウムシの査定を願つた藤田氏に，研究を委ねられた臼本文四郎氏に謝意を表する。

引　用　文　献

植村利夫　アカサビザトウムシの食性　紀州動植物　Vol. 2, No. 2.
藤田衛　ザトウムシの食性に就て　Acta Arachnologica Vol. 1, No. 3.

原　稿　締　切

次號原稿締切は都合に依り10月20日まで延期致す事にします。短篇でも結構ですから材料を持ち合せの方は是非期日までに御寄稿下さる樣御願ひ致します。（編輯子記）